

浦安

The Urayasu Steel Processing and Distribution Area

**URAYASU
TEKKO
DANCHI**

鐵鋼団地



浦安鐵鋼団地協同組合

〒279-0025 千葉県浦安市鉄鋼通り2-1-6
TEL 047-350-5311
FAX 047-350-5316
URL <https://www.u-steelworld.net/>

鋼材流通の拠点・浦安 鉄鋼団地



所在地：千葉県浦安市鉄鋼通り・港
敷地面積：1,075,200㎡
事業所数：270事業所
業種：鋼材の加工・流通

History of URAYASU TEKKO DANCHI

浦安鉄鋼団地の歩み

1960年代

1962.11 (昭和37年)
浦安沖の埋立て予定地の取得に向けて、千葉県と交渉開始

1963.1 (昭和38年)
浦安鉄鋼団地への進出申込受付
184社、希望面積20万9,600坪

1963.6 (昭和38年)
「東鉄連浦安鉄鋼団地組合」を設立
西山伝平が初代理事長に就任

1963.12 (昭和38年)
事業協同組合
「東鉄連浦安団地協同組合」に改組



昭和41年 埋立地風景 現場工事事務所

1964.5 (昭和39年)
県との間に20万坪の分譲協定締結

1968.3 (昭和43年)
進出第1号工場の起工式

1968.4 (昭和43年)
清水球場グラウンド開き

1968.6 (昭和43年)
浦安町議会で字名が「鉄鋼通り」と決定

1968.7 (昭和43年)
千葉県より正式土地引渡しを受ける



昭和43年7月 用地引渡し

浦安沖の埋め立て

昭和30年代まで、浦安は人口2万人足らずの漁師町でした。三方を海に囲まれ、交通の便が悪く「陸の孤島」とも呼ばれていました。高度経済成長が進む中、東京湾の水質汚染が深刻化し、浦安でも昭和33年には江戸川上流部での工場汚水放流事件が起こるなど、海洋汚染が進み浦安の漁業はしだいに衰退していきました。こうした中、浦安町では漁協と協議を重ね昭和34年に千葉県に対して浦安沖の埋め立て事業の促進を申し入れました。これを受けて県は浦安沖を遊園地、住宅地そして流通業務用地として埋め立てることを決定しました。昭和37年には漁業権の一部が放棄され、834ヘクタールの第一期埋め立て工事が昭和39年から始まりました。

1970年代

1969.4 (昭和44年)
鉄鋼団地完成祝賀会が清水鋼鉄倉庫で開かれ、1,300名が参加



昭和46年 第1団地全景

1972.5 (昭和47年)
清水五一郎が第二代理事長に就任

1973.3 (昭和48年)
第2団地の予定面積が12万6千坪と決定

1973.4 (昭和48年)
第2浦安鉄鋼団地の分譲協定書に調印

1979.10 (昭和54年)
第2鉄鋼団地の字名が「港」と決定

1979.12 (昭和54年)
同団地の引渡し式が行われる



昭和54年 第2団地引渡し



昭和54年 第2団地埋め立て完了直後の全景

1980年代

1980.3 (昭和55年)
第2団地の完成祝賀会をパレスホテルで開催

1981.4 (昭和56年)
浦安町が市制施行「浦安市」に

1981.6 (昭和56年)
美化委員会が発足

1983.1 (昭和58年)
労働安全委員会、交通対策委員会が発足



平成元年 浦安鉄鋼会館の建設

1984.5 (昭和59年)
組合創立20周年記念祝典を帝国ホテルで開催

1986.1 (昭和61年)
第1回浦安鉄鋼団地実態調査を実施

1987.6 (昭和62年)
組合名を「浦安鉄鋼団地協同組合」に改称

1988.1 (昭和63年)
組合事務所建設専門委員会を設置

1990年代

1990.2 (平成2年)
浦安鉄鋼会館が完成、清水五一郎理事長の胸像除幕式とともに、会館披露パーティーを開催、450名が出席



平成2年 浦安鉄鋼会館落成式

1990.3 (平成2年)
JR京葉線が東京駅まで開通

1991.5 (平成3年)
若手経営者、幹部社員の親睦団体「U-ing」が発足

1991.9 (平成3年)
第1回浦安鉄鋼団地親睦ゴルフ大会を開催
参加者200名

1994.5 (平成6年)
第三代理事長に村上三郎が就任

1995.11 (平成7年)
U-ing主催の第1回ゆ〜ゆ〜カーニバルを開催、来場者3万人



平成7年 U-ing主催 ゆ〜ゆ〜カーニバル

第2団地の用地購入

昭和48年、千葉県は浦安沖の第二期埋め立て計画を発表しました。これを受けて、組合は県と交渉を開始し、その内41.25万㎡(12万6千坪)を74社で購入することとなりました。しかし、この年の10月起こったオイルショックにより日本経済は大打撃を受けました。第2団地の購入が決まっていた会社の多くも大きな影響を受け、代金の支払いが経営を圧迫するような事態となりました。組合では県への支払い猶予、役員の保証による借入などの手段を講じて、危機乗り切り全力を注ぎました。そして、一社の脱落もなく土地代金を完納し、昭和54年12月に土地の引き渡しを受けました。

2000年代

1997.1 (平成9年)
景況実感調査開始

1999.4 (平成11年)
見明川岸壁の鋼矢板電気防蝕装置設置工事が竣工

2002.5 (平成14年)
第四代理事長に関根宏一が就任

2003.6 (平成15年)
浦安鉄鋼会館で組合創立40周年記念祝賀会を開催

2004.6 (平成16年)
鉄鋼団地一帯が特別用途地区に指定される

2006.1 (平成18年)
操業環境を保全するための「地区計画」が都市計画決定される

2010.5 (平成22年)
第五代理事長に清水範子が就任

2011.3 (平成23年)
東日本大震災が発生、86%の事業場が地盤液状化等による被害を受けた

2011.11 (平成23年)
震災復興に奮闘した各社従業員の慰労会「ランチde元気」を開催
出席者約1,000名

鉄鋼団地の完成

その後、続々と工場や倉庫が建設され、平成2年(1990年)までには、ほぼ100%の会社が進出、また鉄鋼団地の拠点である浦安鉄鋼会館も竣工しました。これによって、270の工場・倉庫群からなる浦安鉄鋼団地が完成しました。浦安の町も大きく変貌しました。埋め立てによって面積は4倍に、2万足らずだった人口は16万人を超えています。浦安鉄鋼団地も今では4千人の人々が働き、年間450万トンの鋼材が行き来する、日本最大の鉄鋼加工流通基地として機能しています。

2010年代

2013.11 (平成25年)
組合創立50周年記念式典を浦安プライトンホテルで開催
500名が出席



平成25年 創立50周年記念祝賀会

2014.5 (平成26年)
第六代理事長に湊義明が就任

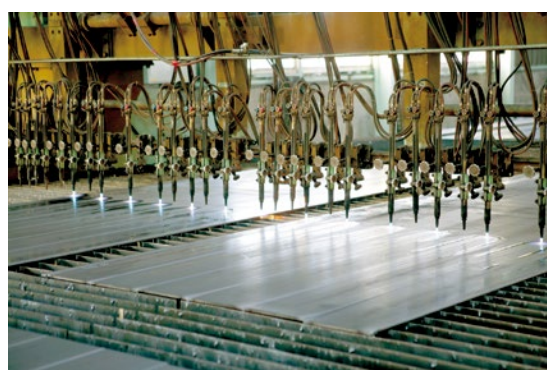
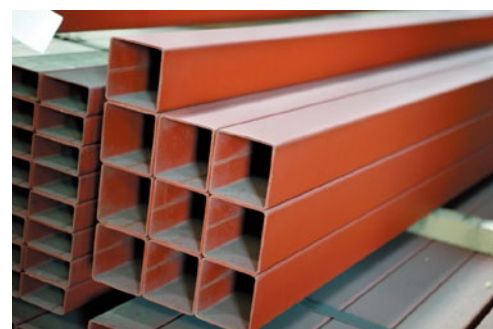
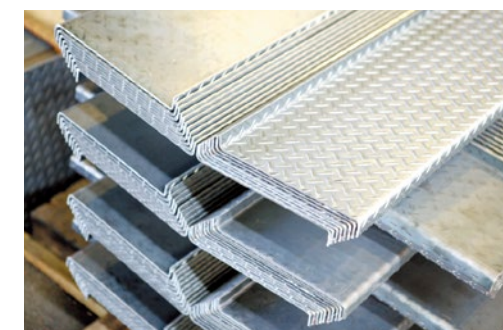
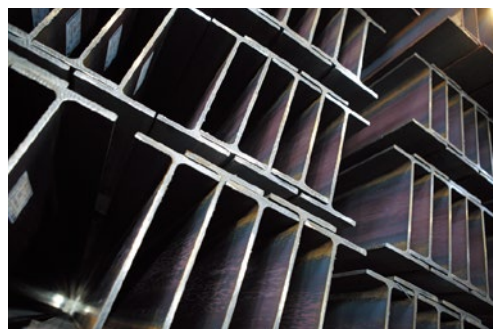
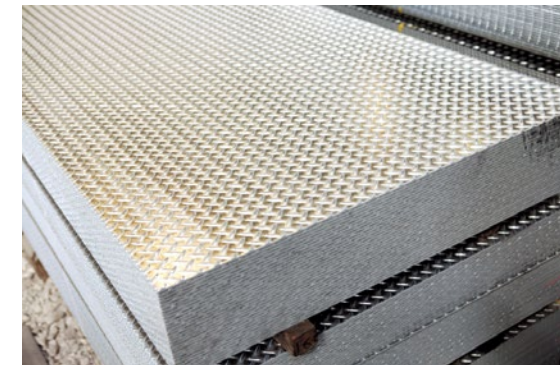
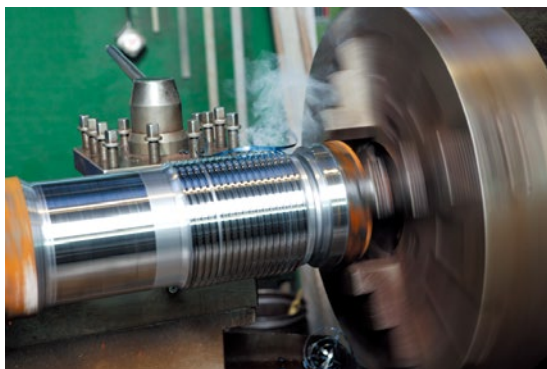
2020.5 (令和2年)
第七代理事長に村上京子が就任



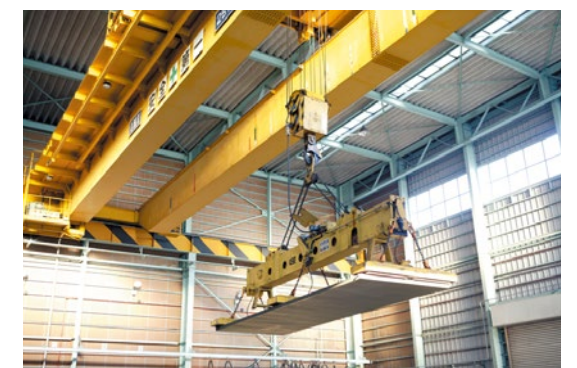
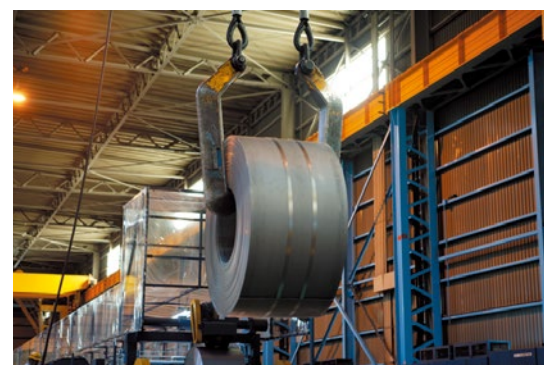
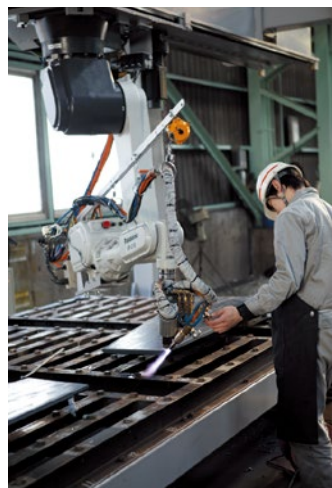
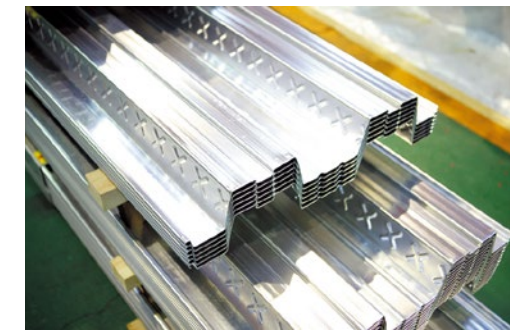
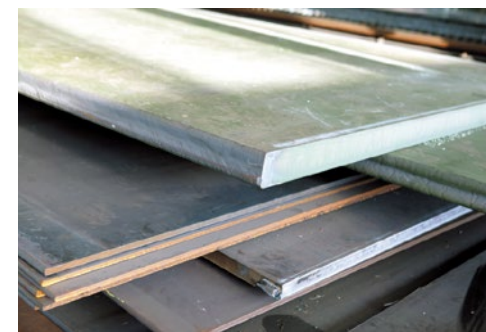
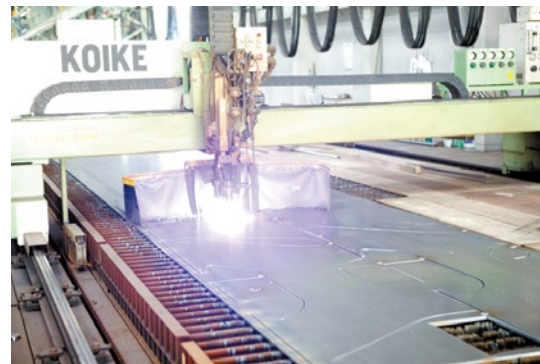
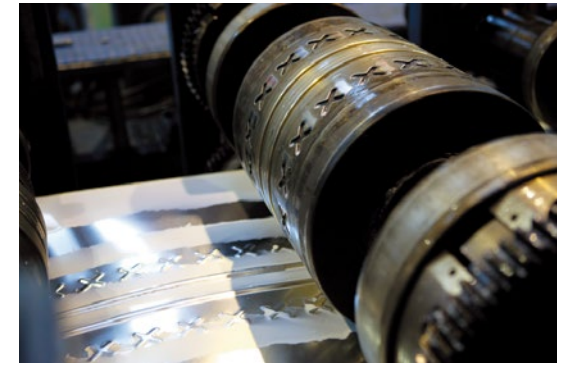
平成25年 浦安鉄鋼団地全景

浦安鉄鋼団地は「鉄の市場」です。

あらゆる品種を取り揃え、
高度な技術で顧客の
ニーズに応えます。



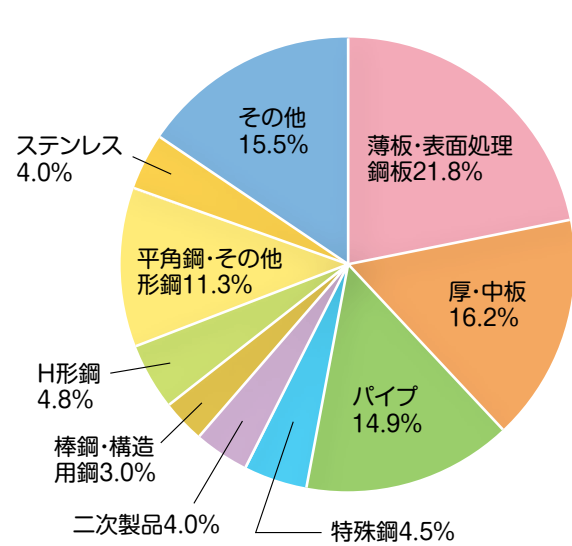
豊富な経験と熟練の技術で、高い精度と品質を提供します。



数字から見た浦安鉄鋼団地

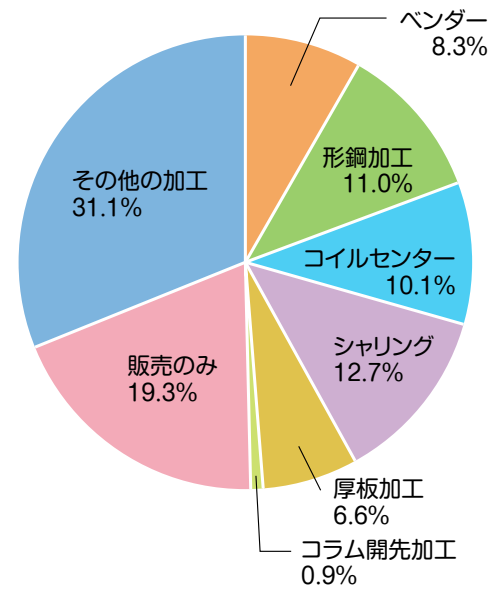
扱い品種の比率

コイルセンターが多いことから、鋼板関係が37%を占めています。



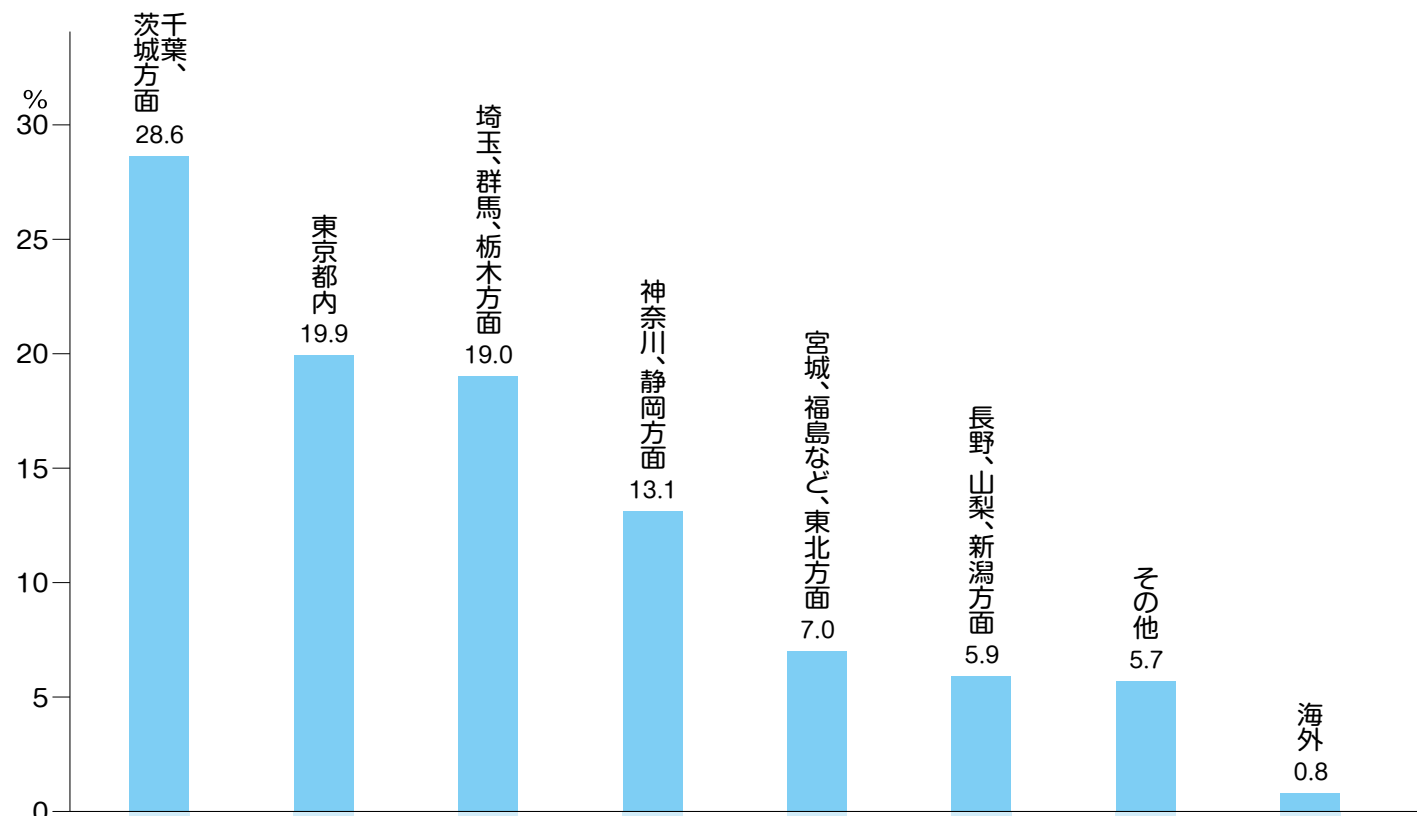
仕事の種類

付加価値をつけることで各社がしのぎを削っています。販売のみの会社は全体の約2割。質の高い加工業務が浦安鉄鋼団地の特徴です。



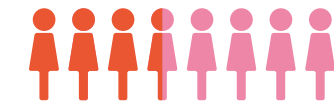
出荷先

80%以上が関東とその周辺に出荷されています。



どのくらいの人働いているのでしょうか？

全社で約4,430人の人が働いています。また浦安市内から通勤している人が約1,190人います。

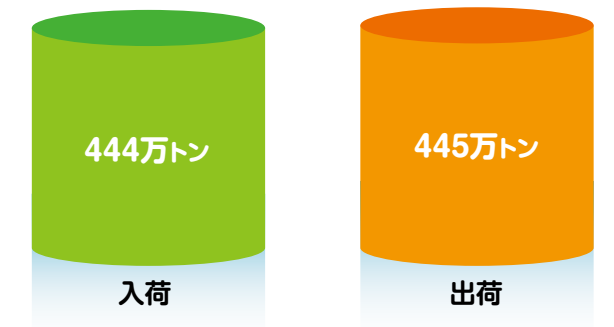


総従業員数：男性3622人 女性 804人
浦安在住数：男性 844人 女性 350人



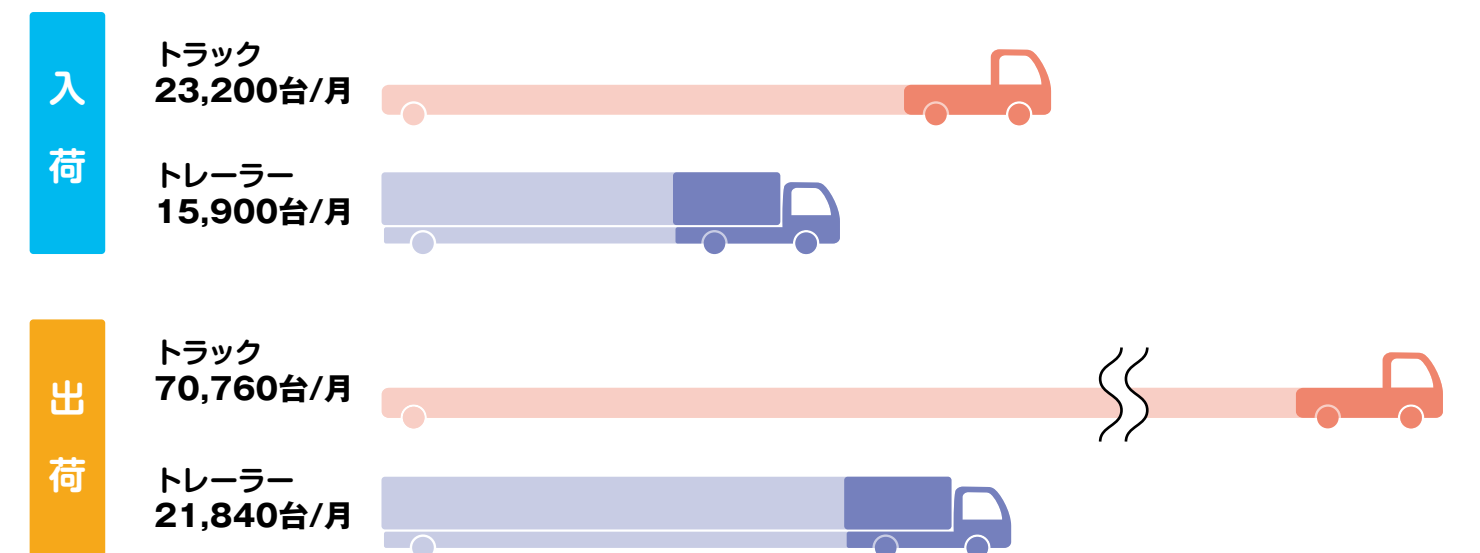
年間取扱い量

219社、270事業所で扱う鋼材は、年間で入荷が約444万トン、出荷が約445万トン。鉄鋼流通基地として日本最大の機能を誇っています。



どのくらいのトラックが出入りするのでしょうか？

1カ月約13万2千台のトラック・トレーラーが鉄鋼団地に出入りして鋼材の物流を担っています。



活動

浦安鉄鋼団地ではさまざまな活動が展開されています。



浦安鉄鋼会館は、組合活動の拠点、鉄鋼団地で働く人々の憩いの場として親しまれています。1階には組合事務局、大小二つの会議室、また喫茶「アゼリア」も好評です。150坪の2階大ホールはパーティー、講習会などさまざまな会合に利用されています。



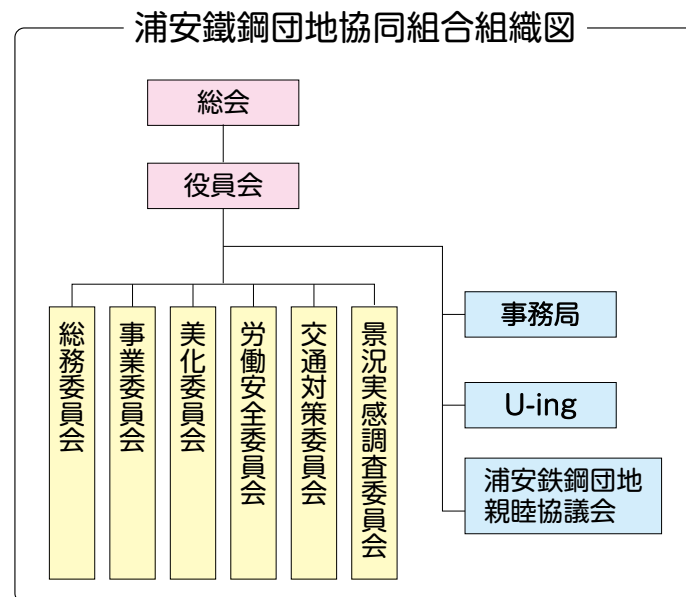
浦安鉄鋼会館



令和4年度役員



組合の執行機関は月に一度開かれる役員会です。この役員会の傘下に6つの委員会がおかれ、33万坪という広大な鉄鋼団地の管理を行っています。



Welcome to the Urayasu Tekko Danchi



The Urayasu Tekko Danchi was developed as the center of steel and distribution industry in 1970s'.

Before then, about a thousand of steel processors and distributors were operating throughout the Tokyo metropolitan area. However, since the traffic got heavier in Tokyo and a demand for steel processing increased, many of them began to move their operations to a reclaimed area in Urayasu City, Chiba Prefecture.

Thereafter, the total number of companies which moved to, the area reached more than two

hundred, and the Urayasu Tekko Danchi Cooperative Association was established in 1963,

For more than three decades, as the largest steel processing and distribution center in Japan, the Urayasu Tekko Danchi has been contributing to the progress of steel consuming industries in and around Tokyo area.

Total Area: 1,075,200m²
Number of Companies: 219
Annual Volume of Transactions: Approximately 4.5 million MT.